



## 人の出会いは 一期一会

森 公一

Mori Koichi

元大阪 YMCA メンバー  
メンバー保護者

### ▼YMCA との出会い

私は、小学生の時に大阪南YMCAの体操教室に参加し始めました。そこから夏には阿南キャンプ、冬にはスキーキャンプに参加するようになりました。スキーキャンプには高校1年生まで参加し、スキーワッペン「エベレスト」を2回とり、最後は意外と一番もらうのが難しい「富士山」が欲しくて、ワッペンをもらって10個のワッペンコンプリートを達成しました。

こんな風にキャンプには何度も参加していた私ですが、実は小学校低学年のころは親元から離れるのが寂しく、身の回りのことを自分でやらなければいけない、行っても知らない人ばかりのキャンプに行くことが嫌でたまりませんでした。しかし回数を重ねて参加していくうちに、知っているリーダーやお友だちが増えてきたことや、年に一回キャンプの時に親友だちに会えることが喜びになり、キャンプが楽しみになっていきました。学年が進む中で一度はYMCAと離れましたが、結婚して子どもが生まれてから、YMCAにファミリー対象のキャンプがあることを知り、家族でYMCAキャンプの楽しみを味わうために、YMCA阿南国際海洋センターのファミリーキャンプに参加するようになりました。

私がYMCAキャンプの中で一番印象に残っているのは、小学校5年生のときに参加したアメリカキャンプです。私にとっては初めての海外でした。グループのメンバーの中には外国人もいて、言葉が通じないという不安を抱えながら、グループで登山をしたりホームステイをしたりしました。

活動中はやはり言葉は通じませんでした。自然の中にと不思議と感情の意思疎通ができました。それが無性に嬉しかったのをいまだに覚えています。キャンプファイヤーでは、日本の文化を伝えるために当時習っていた空手を披露しました。年齢を重ねながら多くのキャンプへの参加を通して、知らないところへ行く怖さや不安もありましたが、それ以上に多くの人と出会える喜びを感じたことが、今でもとても印象に残っています。



《アメリカキャンプより、前列左から2番目の道着を着ているのがご本人》

### ▼YMCA キャンプで得たもの

私は、人見知りで初対面の人と距離感をつかむことが苦手です。YMCA キャンプでは、初対面の人とグループになることがあり、知り合ったばかりの人と力を合わせて作業することが、人との距離感をつかむいい体験になりました。グループ活動の時間を通して徐々に自分をオープンにすることで、相手が自分の中に入ってきてくれるという感覚がだんだんわかってきました。今では人見知りというと驚かれるくらい、初対面の人との距離感をつかむのが上手になりました。

現在、子どもたちを YMCA スキーキャンプに参加させていますが、子どもたちにはいろいろな人と友だちになってきてほしいと思っています。できればそのキャンプに参加しているメンバー全員と友だちになって、人生を豊かにしてほしいです。「人の出会いは一期一会」なので、キャンプでの一人ひとりとの出会いを大切にしてほしいと願っています。毎年家族で参加しているファミリーキャンプでは、自然の良さを存分に感じてほしいですね。



《家族で楽しんでいます、YMCA 阿南国際海洋センターでのファミリーキャンプ》

## ▼YMCA への期待

私が子どものころに参加していた当時の YMCA から感じていたリーダーやプログラムの良い雰囲気は、今の YMCA も変わりません。リーダーやプログラムの良い雰囲気を変えないということはとても難しいですが、その中からより良いものを創り続けてほしいです。私は、「自然の中」での「人と人との出会い」を楽しみにしています。その出会いの場を YMCA には期待しています。

もう一つは、YMCA リーダーたちに対する期待です。YMCA のリーダーたちが人と関わることを大切にする姿勢には、たくさん吸収するものがあります。そんなリーダーたちと関わり心が通じ合った子どもたちは、キャンプから成長して帰ってきます。子どもたちの成長だけでなく、リーダーの成長も伝わってくるので、毎年毎年嬉しくなります。その成長の機会はずっと残してほしいです。YMCA は、人が成長できる場所なので、大切に続けてほしいです。

### Profile



小学生のころ大阪南 YMCA で体操を習い、夏の阿南キャンプや冬のスキーキャンプ、アメリカキャンプに参加経験を持つ。現在は、二人のお子さまがスキーキャンプに参加し、ご家族では YMCA 阿南国際海洋センターでのファミリーキャンプ毎年参加している。

【取材：大阪 YMCA 吉川亜希】